



# 春江だより

9月号

令和6年9月2日(月)

## 「防災の日」

校長 小林 麻子

今年の夏は、「過去最高」や「今までにない」というワードを多く見聞きしました。

連日、日本人の活躍から目が離せなかったパリオリンピックでは、海外大会におけるメダル獲得数が「過去最高」の45個ということで、話題となりました。日本人に限らず、各選手のパフォーマンスに盛大な拍手が送られました。開会式は、初めてスタジアムの外で行われ、各選手がセーナ川をボートで進むということも「今までにない」ものとなりました。

そのような中、今年の夏は連日猛暑が続きました。気象庁のデータによると、今年の7月は7月として日本の観測史上最も平均気温が高かったそうです。9月も残暑が続く見込みです。体調管理をしながら健康に過ごしていきたいと思います。

また、8月8日に、地震が発生、初めて南海トラフ地震臨時情報が発表されました。以前から情報はあったものの突然のことで、警報の音や注意を呼び掛ける音声に不安と怖さを感じました。

9月1日は防災の日。

1923年(大正12年)9月1日午前11時58分に神奈川県西部から相模湾を震源とするマグニチュード7.9の地震が発生しました。関東大震災です。発生が昼食時だったことから、多くの火災が発生し大規模な延焼火災に拡大しました。この地震によって被害を受けた住家は総計37万棟にのぼり、死者・行方不明者は100,000人以上に及ぶなど、近代日本において首都圏を襲った最大規模の震災被害となりました。日本では、地震や津波・高潮・台風・豪雨・洪水など自然災害が少なくありません。そのため、自然災害に対する認識を深めることと、備えや対策を強化することを目的に、9月1日を「防災の日」と制定されました。

災害対策には、「自助」・「共助」・「公助」の3つがあります。まずは「自助」が大切です。食料や飲み物、衣類、常備薬など生活していくための必要最低限のものを自宅に備蓄していつでも持ち出せるようにしておくことが必要です。自分を守ることで周りの方も助けることができます。次が「共助」です。災害時は地域での助け合いが不可欠です。隣近所や地域全体で力を合わせ、手助けしたり協力したりすることです。そして最後が「公助」です。区役所や消防、警察などの公的機関による救助活動や支援物資の提供などの公的支援です。「公助」の力が働くまでに災害発生から時間がかかることも予想されます。まずは「自助」と「共助」ができるようにご家庭においても、お子様と話す機会をもってください。

全国各地域では、防災の日を含む1週間を防災週間として防災の啓発活動や訓練が行われます。本校でも様々な状況を想定した避難訓練を月1回程度実施し、子供たち一人一人が自分の命を守るためにすべきことについて指導しています。また、先月になりますが、本校で開設職員、町会の方々が参加し行政主催の避難所開設訓練が実施されました。備蓄倉庫内の確認と実際避難所として開設するまでの開設職員の動きの確認を訓練しました。そして、学校では、9月2日に地震を想定した引き取り訓練を実施します。お子様と通学路を歩きながら、家に着くまでの道路や建物、避難場所の確認などお願いします。